

女大學寶箱

全

T1A0

22

(KA21)

女大生
 一女子成長
 皆人家庭の男
 婿了はるはれ
 男子より親



妻は世に寸草も
父母に孝を盡し
育れども夫に
終に心奪はれ
疎まれば又も男の

海に身を任せ
心奪はれれば
女は父母に
孝を盡し
育れども夫に
終に心奪はれ
疎まれば又も男の

なまこ 越 澤 ぎ ー ー ー
胃 夫 使 使 一 兩 己
思 子 者 誤 乃 者 一 己 女
子 此 親 乃 者 一 己 女
故 乃 者 一 己 女

一 女 者 容 乃 一 己 女
親 子 者 一 己 女
子 者 容 乃 一 己 女
眼 乃 一 己 女
人 者 怒 乃 一 己 女

物ものししささららぬぬにに終おひて
人ひとふふ先ま立た人ひとをを引ひ嫁よめに
身みのの徳とくをを人ひとに
清きよ笑わらふふ人ひとはは猪いの角つがひ
ささああららぬぬ女むすめのの道みちは

遠とほるるななりり女むすめをを生なむむ如ごとく
順したがひひくく身みはは信まじまじま情なさけ深ふかく
静しずかかららぬぬをを激しららぬぬ
一ひと女むすめ子こはは雅みやびににああららむむ男おとこ
女おんなのの心こころをを正ただすす地ちはは地ちはは

假^{かり}物^{もの}少^{すく}も^も戲^{たの}堂^{びやう}於^おて然^{しか}
見^み聞^きた^たむ^むら^らの^の序^{しよ}
一^いの^の禮^{らい}小^{せう}男^{なん}女^{にょ}を^を席^{せき}
と^と同^{どう}く^くき^きに^に衣^い裳^{じやう}
を^をま^まね^ねて^てま^まを^をま^まに^に

一
一
一
一
一
一
一
一
一
一

拉^ら好^{こう}し^し浴^{よく}を^を
拍^{はく}を^を更^{さら}に^にし^しと^とも^も
子^こより^{より}子^こへ^へ道^{みち}を^を次^{つぎ}
叔^{しやく}の^の記^きを^を必^{かなら}福^{ふく}と^と
焼^{やく}て^て由^{よし}を^を一^{いっ}代^{だい}を^を

いふ及ぶ次まぬ是を
あくも別と正さす
となむし村の武家
此頃の法を名ぞ
り親と能し

名を禰親兄弟に
辱をあき一生身を
守よす家老の口書
奉へりてや女親父
母乃命を媒物に

母さんどおやうに親さんと
小等子もいそいそと
看と夫もいそいそと
石巻はいそいそと
義をもちよ

一婦人を夫の家をわら
家もいそいそと
嫁と母もいそいそと
うそいそいそいそ
雅史乃いそいそ

るも文を起し一は次
とん 女刺したる大く
之れ家は貧乏家
は合者も故りといふ
一度嫁しては心細く

出たは女との後
右へ聖人乃刺す
若女乃は母を養
去る時一は心細く
あはれぬ人おはす

為さす事七の事一は
婿ふ順たる女を云一
二から子かたに女を
是妻を娶ふ子孫
相續のふたれ也

給きとも婦人う心
初儀能く婿の
ふくば女は
子と云ふ一或る
妻よ子の事

子^これ^れく^くた^たま^ま一^一及^及い^いが
三^三の^の淫^淫乱^乱な^なれ^れば^ばあ^あら^らま^まい^い
四^四は^は悟^悟言^言ふ^ふり^りに^には^は
一^一の^の類^類お^おり^りに^には^は一^一の^の類^類
あ^あら^らま^まい^いに^には^はあ^あら^らま^まい^い
あ^あら^らま^まい^いに^には^はあ^あら^らま^まい^い

多^多く^くも^もの^の類^類
い^いは^はる^るに^には^はあ^あら^らま^まい^い
あ^あら^らま^まい^いに^には^はあ^あら^らま^まい^い
あ^あら^らま^まい^いに^には^はあ^あら^らま^まい^い
あ^あら^らま^まい^いに^には^はあ^あら^らま^まい^い
あ^あら^らま^まい^いに^には^はあ^あら^らま^まい^い

おんなは女子の道に習ふ人
の姿はなほ少女の一度嫁
しつゝまぢめと習ふは
假令あまのびるまを
夫よ嫁をせむは母の道

一女子は家の女よりの道
わが父母も孝を習ふ
理なきは夫の家
ふりては母の道よか

親よりいもまへへ
敬い存じたまへ
まへ親の月夜
男れをと怪するのれ
婿の才れ物あるを

と瀬へいん婿の才れ
和み業と念ふ毎に
若婿其命あはむ
りて水月へはあのこと
男姑よ聞其妻の細

男結おとこむすと家いへと物ものと
怒いかでか恨うらみとこれ
孝こと誠まことと
つゆれとのち好このちく好このちす中なか
好このちかきとのちのく

一婦人ひとを別わかれとおん女おんな子こ
夫とと主人しゅじんとおん教おしへおん結むすく
事こと毎まい一いち日にち見み侮おごら
へとおん結むすて婦人おんな乃
及と人ひと子こにおん結むすておん女おんな子こ

学するに教を乞ふは
あし懇懇 → 道学和光
なる會し不忠不順
まゝにまゝにまゝに
なすべし故にまゝに
の

勅ふり文乃教訓あらむ
其信を報へるに疑しき
しはまじく同くは下知
に誤りし文同くは
正しく是を傳へしは乃

近言の疎か海と無縁
かあり夫の娘とわと記
志事と順會と忠誠
それゆゑ逆へては甘
夫をもつて夫とんぬく

夫は逆へては甘
夫は逆へては甘

一見公女公女の
なれど逆へては甘
少清色 宿るれど甘

姑此心一房くおの
おちくはくはく
すれを焼く心と惚
又煙を軟く程あす
一子ら又まおん見嫂ハ

厚くおのまおん家出
婿と同一くす
一娘姑此心骨く
すくも男婿れなり
疎く忠義くは

心こころ 此れをこの 其その 心こころ 也なり
世もよ 怨うらみ 也なり 心こころ 也なり
印いん 白はく 文ぶん に 疎そ 也なり 見み
注しゆ 也なり 物もの なるなり 文ぶん 也なり
不ふ 義ぎ 也なり 有あ り 日ひ の 義ぎ 也なり

和わ 也なり 心こころ 也なり 復ふく 疎そ 也なり 必かならず
先まづ 智ち 也なり 心こころ 也なり 後のち 小こ 文ぶん の 心こころ
一ひと 心こころ 也なり 心こころ 也なり 也なり
和わ 也なり 心こころ 也なり 雜ざ 也なり 疎そ 也なり
氣け 也なり 心こころ 也なり 暴あ 也なり 心こころ 也なり

とらむまゝにわらふに
報^{くち}の^し刑^さ
一言^{ひとこと}を^いて^ま多く
寸^{すん}金^{ごん}を^いて^ま彼^か人^{ひと}を
御^{おん}守^{まも}り^ます^まと^いふ^ま
と^いふ^ま

廿七

人^{ひと}乃^{すなは}清^{きよ}と^いふ^まあ^まら^ま
心^{こころ}小^こ僧^{そう}人^{ひと}の^ま心^{こころ}
語^{ことば}を^いて^ま公^{こう}の^ま心^{こころ}
親^{おん}親^{おん}友^{とも}同^{どう}心^{こころ}
い^いふ^ま如^{ごと}く^いふ^ま内^{うち}の^ま心^{こころ}
い^いふ^ま如^{ごと}く^いふ^ま内^{うち}の^ま心^{こころ}

一母ハ孝ニ小ハ心遣
其ノ身ト堅ク薄ト
護ル一ハ朝ハ早く
起ル夜ニ遅ク寝言
有イ孫ニ一ハ家の

内ハ幸ナリ一ハ心遣
徹ニ續緝在ニ一ハ
亦茶酒ニ多ク飲
其ノ身ト堅ク薄ト
淨瑠璃ハ一ハ深

考ふ所の人の聴くは
定まらざる都人表
かたはあまあるまじく
十歳から内館へ
行く

十九

一重現むのよに
しる神佛とほし
付後ふりあ
人の勤ま
すは候し神

一 人の妻と母にほ
家と保一妻
りりいぬく救
救と家と救る事

一 人の妻と母にほ
家と保一妻
りりいぬく救
救と家と救る事

友連下被等此義記
胃小ハ赤解する物燈
を付一しげ胃女の隨と
圓す一し名好用有
もあ男よみうと通

後石
一才姑社と名出此深
色控極るも用
まゝ如屋すふす一し身
と名結と乃釋

漱ふなるいり → 猪すけも
清きよとあつ人の目めみ
ら
まほまほなるるあつ只ただ
まづ月つきも他ほか → ころの松まつを
司もち由よし全ぜん →

一家いっか郷きやうに松まつ親おや慈あはれかへ
松まつ → 妻つまり亦またの親おや慈あはれと
次つぎよ丁ちやう金かね → 母はは正ただ日ひ
良よ句くみふも先まづ夫をとこの方かた
と親おやく次つぎよらみ親おや此こゝ

前を親一と夫の侍
さきかたは何方で新屋
くぐり人小體者か
すべし次
一母を我親の家をば

清き胃姑り流と建
ゆきよわ親より心嬢
と大切に心い孝行を
る一嬢一と存る
親の心より事心

舟なる金一増く此
の家六大型使を考て
者同きな一丁又家親
のよに記し候後て候
しるるるしるる

一丁に候女一は
こゝろ万のり日辛
と母と勤と女の他
なり留姑のる小左
と陸合と烟一ま

出く家をもと聲を
挿子と音活と流し
常小家乃を
後小外一出へ
一下女とつり子と心城

廿五

司也危一云甲斐
下病を病一悪
智也一好も
いしと福新
曾姑姑とあな

合わ奉りつれど梅
洗ひのあま〜年を印
君れぬと思ひし婦人
あぢきなく〜
信じてゐる必姫

出来ぬ〜出来ぬの
や好〜れ他人なれど
眼之教〜因おしと捨
事〜梅〜下女の
詞を信じて大切なる

孝婦は親を侍
すばらばら下女侍
まじく妻言くも悪ぶ者
ららばらく進出すぐ
子根の志は必親死乃

廿七

中にも公は向く事家
と此は甚とな難の
恐る一又早に老を
はやは氣小人の事
多しそれと怒る事

いされど約く敷板
立ち多し家の内
新まるはあま事あ
折る云あま誤
と並に女は

過は母を怒ふるを
心は内はあまみく
介は折るあま誤
くあまあ換ふつと
あまあまあま

何れも縁と惜念は
但家守ふ入るは
用も立ぬ者も
無上無下
一凡婦人の心様

悪まの物、おかしき
と想ひ、人を
物、妬と智恵、海
や、此、此、十人
七、必、是、婦人の

男^{おとこ}子^こ及^{およ}び^びさ^さふ^ふ所^{ところ}なり
自^{みづか}願^{げん}戒^{かい}く^く及^{およ}び^びさ^さふ^ふ所^{ところ}なり
中^{なか}ふ^ふも^も智^ち恵^えを^を海^{かい}由^ゆ
下^{した}ふ^ふの^の疾^{やく}も^も女^{にょ}に^に
女^{にょ}ハ^ハ陰^{いん}性^{せい}なり^{なり}カ^カ陰^{いん}を^を

女^{にょ}ハ^ハ陰^{いん}性^{せい}なり^{なり}カ^カ陰^{いん}を^を
男^{おとこ}子^こ比^ひふ^ふよ^よ女^{にょ}に^にあ^あら^らず^ず
同^{どう}女^{にょ}の^の所^{ところ}に^にあ^あら^らず^ず
知^ちら^らず^ず又^{また}人^{ひと}の^の所^{ところ}に^にあ^あら^らず^ず
と^とも^も女^{にょ}ハ^ハ陰^{いん}性^{せい}なり^{なり}カ^カ陰^{いん}を^を

家の子に愛と威しよ
事さし教む科も
ふた人と怨と怒説
怨あふ人と妬あふ
くわ身独りんと

思ふ人増し疎よ
利も利家身の仇
とならざるを教む家
はたかく海精子
育むたむと漏る

若くは地を新く
那る存し何事も家
の内を福く支ふ迄
右の法は女子と産
日休の下に外しと

いふは男は天
彼女は地よる也
其のいふも
夫と女は
我らも事な

わさきづくし桑たぐ
連きく家らち穩

かみきんし

たしほり雅あはれ

しんく刺し又書

解き朽く漬き見こも

みよしなからしむる今

代の人女子に名枝

乃るおとほく無く妖調

せしむるわしにけあを

能^よ可^か由^ゆ一^{いつ}生^{せい}身^{しん}と
保^{たも}實^{じつ}な^なる^る一^{いつ}古^こ傳^{でん}
人^{ひと}も^も百^{ひゃく}系^{けい}あ^あと^と出^でく
女^{むすめ}子^こと^と嫁^{よめ}一^{いつ}と^と出^でく
一^{いつ}と^と出^でく
一^{いつ}と^と出^でく

子^こと^と可^か由^ゆ一^{いつ}生^{せい}身^{しん}と
一^{いつ}と^と出^でく
一^{いつ}と^と出^でく
一^{いつ}と^と出^でく
一^{いつ}と^と出^でく

益軒貝原先生述



女万歳宝文庫

百人一首
用文章入 一冊

女用智恵懸筆織

女中談方
重宝品織 一冊

文化四年 丁卯三月

京 今井喜兵衛

江戸 西村源六

全 柏原屋金兵衛

大坂 柏原屋金兵衛